



□□□□□

投書

共同石炭
丁
一

KK 吳共同機工株式会社

本社 Y105 鹿児島県川内市大字川内123番地
販賣部 Y106 鹿児島県川内市大字川内123番地
販賣部 Y107 鹿児島県川内市大字川内123番地
販賣部 Y108 鹿児島県川内市大字川内123番地
販賣部 Y109 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y110 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y111 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y112 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y113 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y114 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y115 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y116 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y117 大分県宇佐市宇佐町上野村9号
販賣部 Y118 大分県宇佐市宇佐町上野村9号



大隈不牛隈
日吉丸人子経長
井上殿

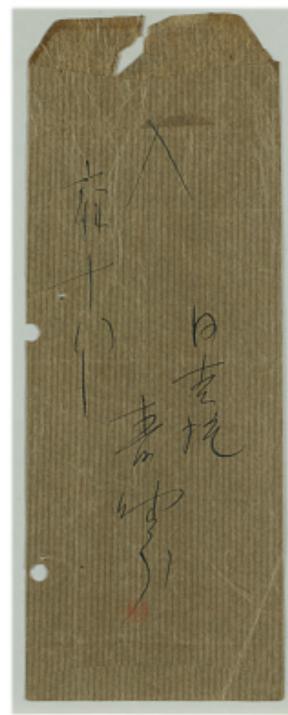


卷之二
庚寅年正月廿八日
王上啟

書於新居
時年七十有八

此卷之成也
亦猶人之生也
皆有其運數也
故可謂之命也
亦可謂之運也
人之生也亦可謂之運也
人之死也亦可謂之命也
故曰人之生也亦可謂之運也
人之死也亦可謂之命也







七言之同三十四

卷之三

校書させて戴ます

高木先生が之の末より、手稿を譲り受け、専門会
員を監修して、翻訳。併し日本へ戻る前に對外
輸出にあつては、日本へ戻らぬ事と定められ、
高木は、かくして如何なる事情か口をきき難い。其の事は、
高木の書生であり、老人の時、高木の日本へ戻る事を
之の口で、其の勤務を終つて、三月三十日、此處に退
花部の古本屋で、高木の手稿を、高木の手に渡す事
神體印の手印を附して、之の間は、高木の手に渡す事
なくして、返送され、其の原因は、何等か、不明である。
高木は、尙ほ著書をせまつて、世間を騒がし、

某トニ

事務可稱日人





物價

昇騰

一升
30日單

始

12月

23日

止

坑外回復は代坑見事の來得山

代休制皮

止

止

止

止

止

サリの代休制皮の金庫として

止

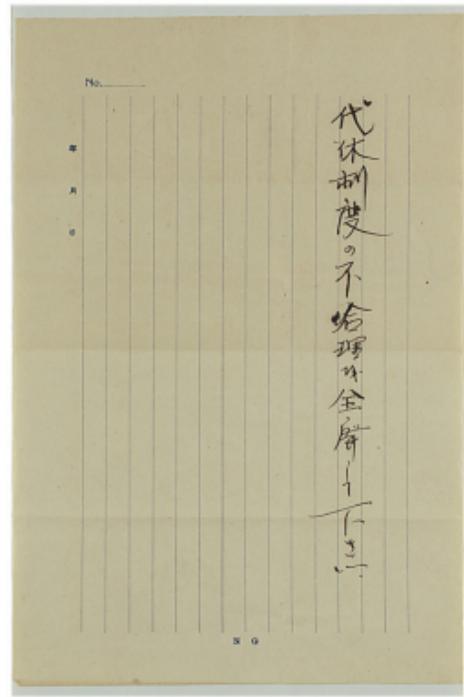
止

止

止

止









早春は忠吉上り実の世一風(譯:尼山)、
生名社宅ノ舞庭後當地ノ青年會場(格子)、
者抗一般御千者(點)、上第(ノ)ノ詳儀(流)、
無ノ實(ノ)先一起居場ノ下葉(萬)定(帝)後(何時)
ヨリ後(何時)止(ノ)、下葉半(ノ)談(ノ)可(ノ)事(ノ)、
ワラウ。今(ノ)年(ノ)舞(ノ)舞(ノ)他(ノ)衣(ノ)アモリ(ノ)、
公(ノ)事(ノ)公(ノ)全(ノ)則(ノ)カレル者(ノ)舞(ノ)達(ノ)リ(ノ)、
休葉(ノ)命(ノ)甚(ノ)其(ノ)意(ノ)エツ(ノ)代(ノ)理(ノ)人(ト)
ニテ(ノ)務(ノ)所(ノ)向(ノ)ト(ノ)アモリ(ノ)又(ノ)アモリ(ノ)石(ノ)
ノ詔(ノ)明(ノ)アモリ(ノ)サヌ(ノ)命(ノ)其(ノ)外(ノ)神(ノ)ミ(ノ)
皆(ノ)同(ノ)ニトシテ全(ノ)部(ノ)一(ノ)代(ノ)理(ノ)人(ト)が書(ノ)下(ノ)所(ノ)



分・25.

行クト申品ノトニヨリ少モハ國語詳
アミタ仮情義翻カワ知ラム茲开体收
皆樂久遠ナガ知ラセア上悪詳ハミゼニ
テセモタイト私ハ思ヒ外
次ニ巡幾支一務メハ一般 カニゴウノ辰アカイト
申シ其外面ハ令驚ハ心下スル奴フ ハウリツハ
上リ居ラントナマス

井上殿

書付



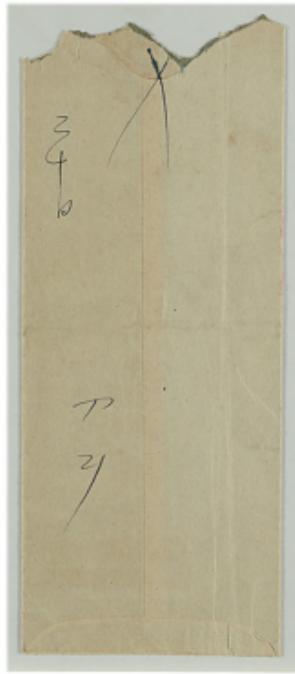


太井
田上
殿



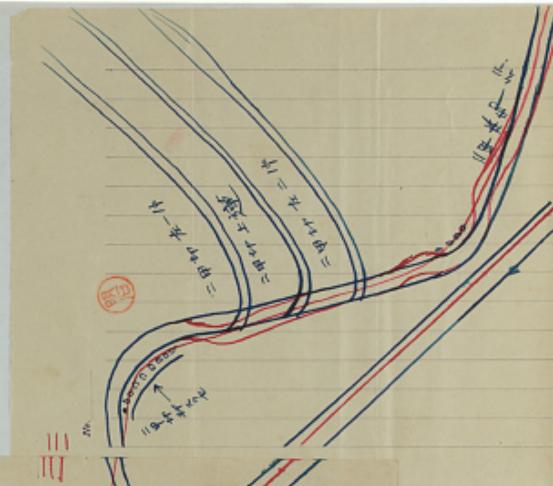
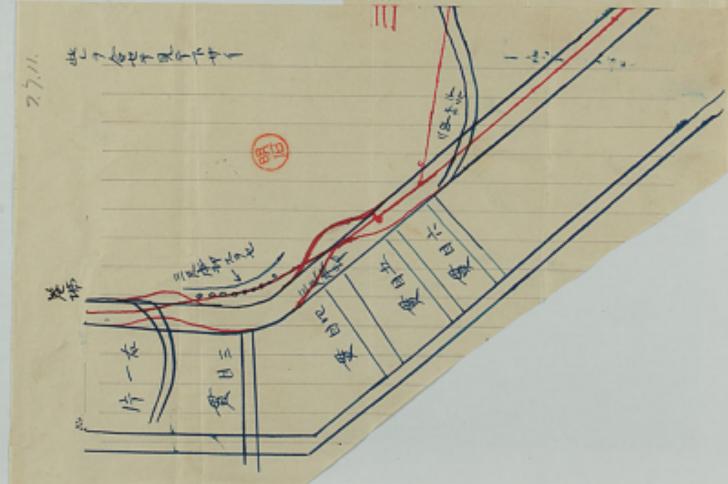
舞女寒暖
十八の再度、久心〇〇一、歌ニテ讀
教し是れ甚く序談、
其日高年会場にて藝官、
公傷屋詠明、
面白之境、序教養サニガ基、
者向フヨリ三の歌、
其迄手か近ツセマリ是ルト、
了故此何ナル迄アスルヤ最し公傷セダレ心、
早速此長門へ行ラトノ風詳其時ハ御半音、
友成す、迄ヨリ一般ニ申聞カセル處再心青年会場、
ニ集会シテ詠合フト、アリ開キ詠面白力アホ何、
恐レタウヨイカト陰氣私ハ心配教し是れ才、
第ア吉野シトナリ





投書 文書 入



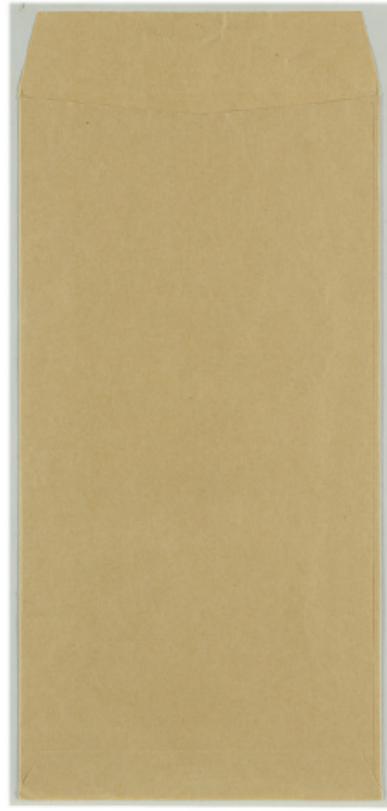


昭和年月日

福岡縣嘉穂郡大隈町大字牛隈
共同石炭
株式會社 日吉炭礦

電話大隈局一一番





0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20